

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	テクニカル3
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース ギター専攻	開設期	前期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位	授業形態	実習		
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書：ギターワークショップ				
担当教員情報					
担当教員	加茂		実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン	
学習目的					
楽器を演奏するには肉体的動作を物理的にコントロールできることが不可欠である。この授業では、楽器の構造や肉体の構造から鑑みた、合理的なプレイフォームを学ぶ。プロミュージシャン（ギタリスト）を想定し、アコースティックエレクトリック両方に対応できるギターのピッキング・フィンガリング・両手のコンビネーション、インプロヴィゼーションに対応できる自由度が高い奏法、バックイングのグルーブ感の増強、ブローケン・コード奏法の習得、を学ぶ。					
到達目標					
本科目はグレード対応科目となっており、2年次前期はグレード11～15に準拠して授業が進行する。ハーモニー的には1年次の基礎的なMajorダイアトニックコードから卒業し、テンションコード、ブルーススケール（ドリアン系・ミクソリディアン系・ペンタ系）、マイナーKeyでのアプローチ、をベースとしながらリードシートを読み解きながら独自の演奏を行えるミュージシャンとしての応用力を技能として体得することを到達目標にしている。					
教育方法等					
授業概要	学生個々が持つ身体的特性（指の長さや身体の高さ）等に留意しながら、グルーブレッスン形式で進行する。他の学生の演奏を自分ならどう演奏するか？と感じながら受けとめ、理解する。さらにそれを自分が演奏する場合はどのような音が出せるかを意識する。授業中の演奏だけではなく、世界的プレイヤーの演奏と自分の演奏を比較し、上級者も中級者も常に向上心を持って演奏技能を発展させることを目指す。				
注意点	キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験	30%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	提出物	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 （口頭・実技）	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	1年次のテクニックの復習(1)		グレード1～5の復習と、各項目が出来るようにする。		
2回	1年次のテクニックの復習(2)		グレード6～10の復習と、各項目が出来るようにする。		
3回	テンションを含むコードワーク(1)		グレード11対応。テンションコードについて理解する。		
4回	テンションを含むコードワーク(2)		グレード11対応。テンションコードについて理解する。		
5回	テンションを含むコードワーク(3)		グレード11対応。Through The Fireを課題曲としてテンションコードについて理解する。		
6回	ブルージーな演奏(1)		グレード12対応。マイナー&メジャーペンタを活用してブルージーに演奏出来るようにする。		
7回	ブルージーな演奏(2)		グレード12対応。マイナー&メジャーペンタを活用してブルージーに演奏出来るようにする。		
8回	ノンダイアトニックコードの理解(1)		グレード13対応。ノンダイアトニックをブルージーな表現で突破出来るようにする。		
9回	ノンダイアトニックコードの理解(2)		グレード13対応。ノンダイアトニックをブルージーな表現で突破出来るようにする。		
10回	ノンダイアトニックコードの理解(3)		グレード13対応。Feel Like Making Loveをブルージーな表現で突破出来るようにする。		
11回	マイナースケール(1)		グレード14対応。3種のマイナースケールについての理解。		
12回	マイナースケール(2)		グレード14対応。3種のマイナースケールについての理解。		
13回	マイナーⅡ-V(1)		グレード15対応。マイナーキーのⅡ-V-Iについてのフレー징が出来るようにする。		
14回	マイナーⅡ-V(2)		グレード15対応。マイナーキーのⅡ-V-Iについてのフレー징が出来るようにする。		
15回	まとめ		全体のまとめ		

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	テクニカル3
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース ベース専攻	開設期	前期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位	授業形態	実習		
教科書/教材	教科書：マスタリング・ザ・ベース Book 1（ATN,inc.）				
担当教員情報					
担当教員	谷 源昌		実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン	
学習目的					
演奏家にとってリズム、ハーモニー、メロディーを理解することはとても重要である。その為に、個々に合った正しい姿勢（楽器の構え方）を身につけ、左手のフォーム、右手のフィンガリング、両手のコンビネーションをストレスの無い（手に負担の掛からない）奏法を習得することを目的とする。様々なビート（8ビート、16ビート等）でグルーブ感を養う。コード進行を理解して演奏し、読譜力を身につけていく。指板上の運指を研究し、音に表情のある表現力を学ぶことを目的とする。					
到達目標					
本科目はグレード対応科目となっており、2年次後期はグレード11～15に準拠して授業が進行する。基礎的な運指での基礎トレーニング。メイジャースケール、メイジャー・マイナーペンタトニックスケールからさらに発展させ、Jazz Stadard Tuneなど様々なジャンルのベースラインを研究し、Lattin Styleなど、世界の代表的なGrooveをマスターし、リードシートを読み解きながら演奏を行うことのできるミュージシャンとしての基礎力を技能として体得することを到達目標にしている。					
教育方法等					
授業概要	学生個々が持つ身体的特性（指の長さや身体の大きさ）等に留意しながら、グルーブレッスン形式で行うレジュメを使い運指を学び、読譜力を高める。教科書「マスタリング・ザ・ベース Book 1（ATN,inc.）」では、グレードに対応させながらJazz tuneやLattin Styleなどのコード進行や様々なビートを学ぶ。グレードの内容に応じてオリジナルのマイナスワンやCDやオリジナルの譜面を用いて授業を行なう。				
注意点	キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験	30%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	提出物	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 （口頭・実技）	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	1年次のテクニックの復習(1)		グレード1～5の復習と、各項目が出来る。		
2回	1年次のテクニックの復習(2)		グレード6～10の復習と、各項目が出来る。		
3回	Shuffle Groove（1）		グレード11対応。Shuffle Grooveを安定したリズムで演奏出来る。		
4回	Shuffle Groove（2）		グレード11対応。Shuffle Grooveを安定したリズムで演奏出来る。		
5回	Half time shuffle Groove（1）		グレード12対応。Half time shuffle Grooveを安定したリズムで演奏出来る。		
6回	Half time shuffle Groove（2）		グレード12対応。Half time shuffle Grooveを安定したリズムで演奏出来る。		
7回	Diatonic Chord scale（1）		グレード13対応。Diatonic Chord scaleを理解出来る。		
8回	Diatonic Chord scale（2）		グレード13対応。Diatonic Chord scaleを演奏できるようにする。		
9回	3種のMinor scale(1)		グレード14対応。3種のMinor scaleを理解する。		
10回	3種のMinor scale(2)		グレード14対応。3種のMinor scaleを演奏出来る。		
11回	Lydian ♭7th scale		グレード15対応。Lydian ♭7th scaleを理解し演奏出来る。		
12回	Whole tone scale		グレード15対応。Whole tone scaleを理解し演奏出来る。		
13回	Combination of Diminish scale		グレード15対応。Combination of Diminish scaleを理解し演奏出来る。		
14回	Altered scale		グレード15対応。Altered scaleを理解し演奏出来る。		
15回	まとめ		全体のまとめ		

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	テクニカル3
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース　ドラム専攻	開設期	前期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位	授業形態	実習		
教科書/教材	毎回、資料を配布する。　教科書　STICKCONTROL,SYNCOPATION,ドラムパターン大辞典326				
担当教員情報					
担当教員	前田		実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン	
学習目的					
ドラムを演奏するには無理のない姿勢で合理的な体のコントロールができることが不可欠である。この授業では、楽器の構造や肉体の構造から鑑みた、合理的なプレイフォームを学ぶ。プロミュージシャン（ドラマー）を想定し、様々な音符をスムーズに叩き分け、力みのない心地よいキレのある音色、ドラミングを目指し、またそれぞれのリズムの持つ特徴を理解して、その曲がももっているフィーリングを瞬時に見極めるスピードのある対応力を鍛え、人間味のある血の通ったドラムを演奏出来ることを目的とする。					
到達目標					
本科目はグレード対応科目となっており、2年次前期はグレード11～15に準拠して授業が進行する。前期では、フィンガーコントロールに重点を置き、軽やかで、より自由度の高い現代に必要なドラミングの表現を身につける。様々な手順で演奏するルーディメンツをじっくりと習得することで、単調にならないドラム、またドラムの奥深さをより発見できるヒントを自ら見つけれられるようになる。ダイナミクスの重要性を理解し、迫力のあるドラミング、フィンガーコントロールを使いスムーズで軽やかなシャッフル、4ビートのパターンを演奏できるようになることを目標とする。					
教育方法等					
授業概要	学生個々が持つ身体的特性（手、指や身体の大きさ）等に留意しながら、グループレッスン形式で進行する。他の学生の演奏を自分ならどう演奏するか？と感じながら受けとめ、理解する。さらにそれを自分が演奏する場合はどのような音が出せるかを意識しながら受講する。授業中の演奏だけではなく、プロのプレイヤーの演奏と自分の演奏を比較し、上級者も中級者も常に向上心を持って演奏技能を発展させることを目指す。				
注意点	キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備　考		
	試験	30%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	提出物	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 （口頭・実技）	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	1年次のおさらい		1年次の復習		
2回	ダブルストローク（1）		グレード11対応。シングル、ダブルストロークのコンビネーションフレーズが叩くことが出来る。		
3回	ダブルストローク（2）		グレード11対応。ダブルストロークにアクセントをつけて叩くことが出来る。		
4回	フラム系ルーディメンツ（1）		グレード9対応。フラムアクセントを叩くことが出来る。		
5回	フラム系ルーディメンツ（2）		グレード9対応。フラムタップ、スイスアーミトリブレット等のルーディメンツを叩くことが出来る。		
6回	6連符（1）		グレード13対応。6連符をオルタネイト、手足のコンビネーションで叩くことが出来る。		
7回	6連符（2）		グレード13対応。6ストロークロールを叩くことが出来る。		
8回	ルーディメンツ		グレード13対応。代表的なルーディメンツを叩くことが出来る。またつなげて演奏できる。		
9回	ダイナミクス		グレード12対応。様々なフレーズを高、中、小の高さで叩き分け、コントロールできる。		
10回	シャッフル（1）		グレード14対応。ダウンアップ奏法を使ったシャッフルパターンが叩くことが出来る。		
11回	シャッフル（2）		グレード14対応。スネア、バスドラムでシャッフルフィールを叩くことが出来る。		
12回	ボサノバフィール		グレード15対応。代表的ないくつかのボサノバパターンの特徴を理解し、叩くことが出来る。		
13回	4ビート（1）		グレード15対応。シンバルレガートの基本を理解し、基本的な4ビートが叩くことが出来る。		
14回	4ビート（2）		グレード15対応。シンバルレガート時における、バスドラム、ハットを使ったフィルが叩くことが出来る。		
15回	まとめ		前期でやった内容を振り返る。		

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	テクニカル3	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース　キーボード専攻	開設期	前期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位	授業形態	実習		
教科書/教材	参考書：キーボードバックイングまる覚え、ジャズ無窮動トレーニング、ピアノのテクニック				
担当教員情報					
担当教員	佐久間		実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン	
学習目的					
楽器を演奏するには自分の指や体を物理的にコントロールし、思いのままに演奏できることが不可欠である。この授業では、1年次の授業を踏まえ、楽器の構造や肉体の構造から鑑みた、合理的なプレイフォームを学ぶ。プロミュージシャン（ピアニスト、キーボーディスト）を想定し、クラシック式フレーズから左右の各指の独立が出来るようにする。また、鍵盤間の距離を完全に体感し、自分の体の一部のように演奏出来るイメージを作り上げる。2年次は更に難易度の高いテンションコード等の演奏も学び身に付けることを目的とする。					
到達目標					
本科目はグレード対応科目となっており、2年次前期はグレード11～15に準拠して授業が進行する。AnyKeyのメジャー、マイナーダイアトニックコードを網羅し、自分が弾いている音階がきちんとイメージ出来るようにする。更にはsus4、dim、aug、テンションコードなど複雑なバックイングも苦手意識なく弾けるよう自分のものにする。実際にそれらを弾いているミュージシャンのプレイなども参考にし、確実にマスターすることを到達目標とする。					
教育方法等					
授業概要	学生個々が持つ身体的特性（指の長さや身体の大きさ）等に留意しながら、グルーブレッスン形式で進行する。他の学生の演奏を自分ならどう演奏するか？と感じながら受けとめ、理解する。さらにそれを自分が演奏する場合はどのような音が出せるかを意識しながら受講する。授業中の演奏だけではなく、世界的プレイヤーの演奏と自分の演奏を比較し、上級者も中級者も常に向上心を持って演奏技能を発展させることを目指す。				
注意点	キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備　考		
	試験	30%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	提出物	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 （口頭・実技）	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	バックイングと移調		グレード11対応。指定されたコードを移調できることを目的とする。		
2回	弾き語り(1)		グレード11対応。指定された曲を自分のキーに合わせて移調し、簡単な弾き語り出来る。		
3回	弾き語り(2)		前回の内容に加え、半音上げ下げして黒鍵多めのキーが弾くことが出来る。		
4回	各種コード(1)		グレード12対応。sus4、dim、augが弾くことが出来る。		
5回	各種コード(2)		グレード12対応。Add9、Maj7、9thが弾くことが出来る。		
6回	テンションコード(1)		グレード13対応。まずはCキーのテンションコードを理解し、弾くことが出来る。		
7回	テンションコード(2)		グレード13対応。Cキー以外のテンションコードが弾くことが出来る。		
8回	テンションコード(3)		指定したテンションコードを含むコード進行が弾くことが出来る。		
9回	テンションコード(4)		難易度が高いので前回に続きテンションコードに慣れる。コードを見てすぐ弾くことが出来る。		
10回	バックイング(1)		グレード14対応。BPM120に設定し、任意のコード進行のコードチェンジがスムーズに出来る。		
11回	バックイング(2)		前回の内容に加え、今までやったテンションコードを含む複雑なコード進行をBPM120でキープできる		
12回	バックイング(3)		グレード15対応。左右のリズムをバラバラにしたバックイング出来る。		
13回	バックイング(4)		キーボードバックイングまる覚えに載っている様々なジャンルのバックイングを弾くことが出来る。		
14回	復習		今までの内容を踏襲した課題を出し、それに対応して自分なりのバックイングを弾くことが出来る。		
15回	まとめ		全体のまとめ		